



TITLE:

附属図書館のあり方

AUTHOR(S):

CITATION:

附属図書館のあり方. 静脩 1966, 3(5): 5-5

ISSUE DATE:

1966-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36369>

RIGHT:

カードの検索とそれを助ける参考掛と受入掛と、貴重書あるいは dead book の所蔵、保管、閲覧に限ってはどうか。(教養部図書室)

○ 中 本 誼

一般に図書館という所は、ひんやりしてどこか殺風景で、外の世界と、きっぱり離れているようです。でも、ぼくの高等学校の図書室の窓ぎわは、庭に面していて、僕の一番好きな所でした。春は、新緑や蝶に目を休め、秋は、金木犀の香と、自然界に面していたからです。本学の図書館も、もっと自然を取り入れてはどうでしょう。そうすれば、他では、味わえない楽しさができて、一層すばらしいものに、なるのではないのでしょうか。

(理学部2回生)

○

附属図書館は数多くの困難な問題をかかえている。図書館への期待と批判の声はしばしばきか

れるが、それに対する改善には従来から本館としてもできるだけの努力はして来たとし、今後もしようとしている。しかし仕事量の著しい増大に比し、人員の過少と財政面の窮乏は大きな障害となって図書館にのしかかっている。曲がり角にきている本館のあり方についてよせられた数々の意見は、至極もつともと思われる。本館としてもこれにこたえるため、種々の制約はあるが、環境の整備や情報活動も、可能なことから一つずつでも実現したい。しかしながら素手では結局縫策に終るのを憂える。知識のソースだといわれながら、それほど重視されていない図書館、改善への努力は図書館にのみ負わされてきたが、あるべき姿の京都大学図書館の実現は、単に図書館だけの努力で達成できるものとは考えられない。館員として一層の努力を惜しまぬとともに、背後に大学当局はもとより、全学の各層の深い理解と支援を期待する。(編集部)

○ 「富士川文庫・本草関係図書」医学図書館および薬学部図書室へ移される

久しく本館に所蔵していた標記図書は、医学関係の図書は医学図書館へとの趣旨と、当該部局の要望に基づいて、今回それぞれへ移された。富士川文庫 9,017冊は医博、文博故富士川游氏の旧蔵書で、大正7年本館に寄贈された医学史関係の豊富な資料である。日本医学史の著者富士川博士の面目をしのぶと共に、和漢医学および日本医学史研究に不可欠のものとして、ひろく学外にも知られその利用も多い。医学図書館では来たるべき利用に備えて、整理、配架など準備に多忙である。

本草関係図書 2,043冊は本学農学部教授故菊池秋雄博士の旧蔵書がその大部分を占めている。これは他の園芸、植物などに関する多量の蔵書と共に、昭和29年以来本館に収蔵されていたが、今回薬学部図書充実のために本草関係のものが移動された。同図書室ではすでに配架を完了し利用を待っている。ちなみに菊池博士が和梨(二十世紀)の品種改良育成に貢献されたことはよく人の知るところである。

○ フランス学位論文到着

パリ大学と本学との間の交換図書として、自然科学系を主とする(希望により法・文系も可)学位論文が、1959年より年1回定期的に150~200冊ずつ送られてくる。今年度は去る11月、Paris, Lyon, Strasbourg, Lille, Grenoble, Poitiers, Dijon, Besançon, France 9大学の論文205冊が到着、関係部局へ分配された。その内訳は次の通り。

理 47, 法 28, 医 24, 経 9, 農 1, 化研 27, 日本物理化学研究会 69.

○ 本館所蔵資料の掲載書寄贈される一「甲子兵燹図・天王山十七士忠死之図」一

この二つの図は尊攘堂遺品として、本館に所蔵する維新史料である。去る11月世界文化社刊行の日本歴史シリーズ17「開国と攘夷」(P. 29, P. 55)中に挿図として掲載されたので、その1本が同社より本館へ寄贈された。このように本館資料を利用しての出版物は、寄贈されるたてまえになっているので、今後そのつど紹介することとしたい。